令和５年度第１回県央広域振興圏経営懇談会会議録

日時：令和５年６月 26 日（月）　15：00～17：00
場所：サンセール盛岡　３階　鳳凰

１　開会

２　挨拶

【佐々木局長】

皆さんこんにちは。今年度１回目の県央広域振興圏経営懇談会の開催にあたり、御挨拶を申し上げます。委員の皆様におかれましては、御多用のところ御出席いただき、誠にありがとうございます。また日頃から盛岡広域振興局の施策推進にあたり、御協力、御支援を賜るとともに、各分野におきまして、御尽力をいただいていることにこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

さて今年度は、皆様からも御意見をいただき策定した、県民計画、第２期アクションプラン、地域振興プランの初年度でございます。当県央広域振興圏においては、東北の拠点としての機能を担う地域を目指す姿とし、管内市町をはじめ、様々な主体と連携をしながら、地域の課題をしっかりと把握し、その解決を図って参りたいと考えてございます。

本日は令和５年度の当広域振興局の業務方針等について御説明申し上げますので、限られた時間ではございますが、施策の推進や、圏域の課題解決について、忌憚のない御意見御助言を賜りますようお願い申し上げまして、御挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

３　新任員紹介

佐々木孝之委員が自己紹介

４　報告

新型コロナウイルスの最近の状況について

【仲本保健福祉環境技監兼所長】

改めまして保健所長をしております仲本です。よろしくお願いいたします。資料１「新型コロナウイルスの最近の状況について」を御覧いただければと思います。お手元、大丈夫でしょうか。２ページ目ですね。御承知の通り先月の５月８日から、新型コロナの感染法上の分類の変更がなされました。それまで２類相当ということで、入院勧告や就業制限といった法律的な強制力である程度コントロールさせていただいたわけですけれども、５月８日からは５類ということになりまして、具体的な感染症の名前とかその辺は後で御覧いただけ

ればと思いますけども、保健所の関与が少なくなったということは御承知かと思います。３ページを御覧ください。５類後移行期の入院調整というページがあります。従来、保健所は、全ての病院、開業医から、コロナ陽性がありましたという御連絡をいただいた後、その入院調整、医療調整班を含め調整し、こちらの病院或いは御自宅にというような形をとっていたわけですけども、５月８日以降は法律的な拘束力がなくなりまして、基本的には、他の病気と一緒で、御自身が病院に直接連絡して外来医療機関の先生、或いは消防隊の方に入院調整をしていただくという体制になっております。現在コロナを診ていただくメインの入院も可能な病院が、盛岡圏域で 40 近くあります。その中で、まだ慣れてない医療機関も多いので、今のところ９月末までの間は、二グループに分かれて、定期的に３週間に 1 回、メール、ウェブで対応しておりまして、御苦労の点や何かありましたらということで調整をさせていただいています。現時点でも、入院調整がうまくいかなければもう遠慮なく保健所に御連絡くださいということをお知らせしております。５月８日以降何件かそのような事例で、保健所が調整させていただいていることもあります。次のページを御覧ください。岩手県内保健所別患者報告数５月８日以降、週ごとに集計しております。全体として見ると岩手県はそれほど増えてないのかもしれないという状況ではあります。次のページを御覧ください。盛岡医療圏の新規感染者発生動向 48 週から 24 週ということですけれども、盛岡圏全体を見ますと、やっぱり少しずつ増えていると。もちろん８波の時に比べるとまだ少ない状況にはありますけども、ちょっと増えているかなという印象はあります。その次のページを御覧ください。全国の新型コロナ患者数推移があります。実は毎日のデータは推計できなくなってしまっていまして、これはモデルナ社というところが、独自の調査で発表しているものなのですけれども、これを見ると、今８波を超えて９波に入りつつあるというのが、今日尾身先生もおっしゃっていましたけども、分かるかなと思います。全国的に見ると、もう明らかに増えているのは確かだと思います。次のページを御覧ください。その中でも特に沖縄県がかなり大変な状況になっています。これは週と年齢別の感染者報告数をグラフにしておりますけども、要するに緑の棒グラフが一番最近ですけども、確実に、５週間前に比べてすべての年代で感染者が増え、３倍４倍という形になってきております。次のページを御覧ください。その結果として、入院患者数及び新規入院患者数の沖縄県の推移ですが、すでに８波に近い状態まで増えておりまして、病床の逼迫に近づいています。昨日も実は夕方沖縄中部病院の高山先生と話をしていたのですけども、かなり逼迫していて、青白い顔された状況でありまして、要するに岩手県は今までも少なかったわけですけども、大体沖縄とか東京から遅れて１ヶ月２ヶ月してから大きな波がくるということが今までありましたので、注意が必要かなと思っております。次のページを御覧ください。ちょっと説明が長くて申し訳ないのですが、オミクロンになってからですね明らかに致死率そのものは下がっています。最初は５％、つまり 100 人感染すれば５人ぐらい亡くなっていたわけですけども、現在は千人が感染しても２人ぐらいという状況で、亡くなる方は確かに減っています、率としては減っています。次のページを御覧ください。ただ、とにかく数が多かったので、全体とすると死亡

者が非常に多い。どんどんまだ増えているという状況。そして、厄介なのが次のページですね、コロナは後遺症が多いという話で、あらゆる病気でいろんな後遺症が報告されていまして、特に厄介だと思うのが、図の真ん中の脳・神経系の辺りですね、ブレーン・フォグと言われる頭がぼうっとしてしまう症状とか、倦怠が続くとか、或いは認知症が進行するということが言われています。最後のページを御覧ください。まとめです。全国的には確実に増加しております。沖縄はもうすでに病床が逼迫しております。沖縄、首都圏からは１ヶ月程度遅れで岩手県の感染拡大を懸念しております。死亡者数後遺症の多さからですね、コロナは、現時点ではインフルエンザ同等の疾患とは我々は思っておりません。ということで、死亡者を減らすためには重症化リスクの高い方へのワクチン、半年間経っておりましたら、免疫は明らかに下がります。下がってきます。ですので、特に高齢者を中心にしっかりワクチンを打っていただく必要がありますし、学校のクラスターも出てきておりますので、注意が必要です。医療機関の高齢者施設では、１例発生しても、亡くなる方に繋がってしまいますので、保健所に遠慮なくご連絡いただくようお話をしているところです。はい。以上です。

５　議事

令和５年度の盛岡広域振興局の取組について

【今特命参事兼企画推進課長】

はい。以上で報告に代えさせていただきます。それでは、議事の方に入らせていただきます。ここからの進行につきましては、県央広域振興圏経営懇談会設置要綱第６によりまして、吉野課長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします

【吉野英岐座長】

はい。今御指名いただきました、岩手県立大学の吉野でございます。昨年より引き続きということですので、進行役を、仰せつかりましたのでこれから皆さんに御協力いただきながら、議事を進めていきたいと思います。議事は次第に書いてある通りですが、これだけだとどういう進め方かちょっとわからないかもしれませんので、あらかじめこういったやり方で進めたいということを申し上げますので、それを頭に入れた上でこれからの御説明を聞いていただきたいと思います。この後、資料２・３・４について、事務局の方から一括で説明があります。そして、委員の皆様はそれぞれの専門分野といいましょうか、強い分野をお持ちであるというふうに聞いておりますので、その分野を中心に全員から御発言をいただく予定と考えております。御発言をいただく順番も一応あらかじめ頭に入れていていただいた方が、御用意がしやすいかと思いまして。資料５、皆さんの手元にありますか。資料５に分野が記載してありまして、一番左側にローマ数字でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと書かれています。該当する資料ページも出ておりまして、段取りとしては、この右側の順番に、委員の皆様に一言ずつ、御感想御質問御意見等いただく予定です。担当委員さんは恐縮ですけれども、こ

のような並びになっておりますので、この順番で、御指名させていただきます。順番がきましたらこちらからお名前を振りますので、御発言いただければと思います。全体的には、17時までというふうに聞いておりますので、何とか２時間で収めたいと思います。例えば県の審議会ですとチンというふうにお知らせの鐘がなることもあるのですが、今日はそういうことはなしで皆様のペースで、あまり長くならないようにということでありますけれども、こちらからストップかけることは特にありませんので、御協力をお願いしたいと思います。はい。それでは大体皆さん出番の心づもりをしていただけたというふうに考えますので、この後資料２・３・４について、事務局の方から御説明お願いいたします。

【鈴木理事兼副局長兼経営企画部長】
　資料２・資料３・資料４に基づき説明

【吉野英岐座長】
　はい。ありがとうございました。資料が沢山ありますので、なかなかすぐにどれというのは難しいかもしれませんけれども、もう 1 回先ほどちょっと御説明しました資料５というものを御覧ください。資料はA4　1 枚紙になっていまして、大きく分野が４つに分かれます。重点課題というのが、第１分野は１・２・３です。第２分野は４・５と 11 が入っていますので、ちょっとそこが御説明の順番とは少しずれます。それから第３分野が６・７の後に 10 が入っています。さらにその他４つの内３つがこの第３分野に入っています。第４分野は８・９とその他残りで主に農林水産業に関わるところです。その詳しい内容は、今の御説明にあったわけですけれども、もう 1 回振り返るとすれば資料３や資料４あたりが番号と一致しています。皆様御担当される分野のより詳しい中身をもう 1 回確認する場合は資料３資料４を御覧になっていただけると、比較的わかりやすいのではないかと思っております。それでは各分野から担当委員に御発言を求めますが、それが終わった後に、お答えを一括して事務局からいただくことになっております。また、他の分野の方が、その分野について御質問御意見がある場合は、それが終わった後に受け付けることができますので、また、その場合は挙手をお願いすることになっております。はい。それでは早速で申し訳ございませんが第１分野の担当委員であります半澤委員、作山委員、藤田委員、南舘委員におかれましてはこの順番で、今の説明、或いは資料２の中で書かれていることについて御質問や御提案等々ありましたらお願いしたいと思います。早速ですが、保健福祉の分野におかれまして、半澤委員さんからお願いしてよろしいでしょうか。

【半澤久枝委員】
　はい。矢巾町で子育て支援の活動をしております半澤といいますよろしくお願いいたします。私の方で、資料４の２ページ目の下右側の下の方に、こども家庭センター市町村設置推進ということで、新しい事業になっているところをちょっとお尋ねしたいなと思いまし

た。ちょっと調べると、2024 年４月以降の設置を目指されているような、インターネットで調べると、そういったことが書かれていたました。こども家庭センターの、どういったことをされるのかっていうこと、現状と課題の④のところに書いてあること、何か進められるのかなというところを具体的に説明していただきたいです。それから、私たちのような民間の子育て支援事業者がそういった仕組みの中で、自分たちの活動に生かせるようなところもお伺いできたらと思います。２点目ですけれども「９　子どもの学習・生活支援事業」学習会の開催のところですが、この間、うちの未就学のお子さんと親子対象の広場にお母さんが赤ちゃん連れてやってくるのですが、職場復帰すると言っていらっしゃいました。どんなお仕事しているのですかってお聞きしましたら、フリースクールを運営されているご主人の活動を、自分も同じように応援していると言っていらっしゃいました。子供の不登校が最近すごく増えてきているということで、その小学校のフリースクールがまだ盛岡でも少ないっておっしゃられていました。運営したいけれど、人件費も少ない、クラウドファンディングで運営を何とかというふうに、求められていることに答えていく、子供たちのために何が必要かというところで頑張られているところもあって、学習会の開催というのはやはり貧困対策というところの流れかなとは思うのですけれども、間口が広がるのかどうかお伺いできればなと思いました。

【吉野英岐座長】
　はいありがとうございました。それでは先に質問を一括して受け付けてから回答は後程まとめてお願いします。続いて文化スポーツ部門の作山委員お願いします。

【作山正美委員】
　健康づくりやスポーツ、或いは文化に関連して、ここ３年ほど参加者が減少したということがありましたが、最近では、朝晩歩いている人や走っている人が増えてきたように感じます。ただ問題かなと思われるのは、今日もすごく暑かったわけですけど、果たしてこの暑さの中で安全に運動やスポーツができるか、特に日中にという問題があります。一方、今回の資料に書かれていましたが、岩手県の児童生徒の肥満は多くみられ、全国でも１桁の順位となっているようです。盛岡市内の小学校では、６月でも暑い時はプール授業をやらないことがあると聞きました。また、夏休みはプールでの遊びや水泳がなくなったということで、果たして夏に運動する機会が無くなっていいのかという気がします。少しでも運動量を増やすために、例えば体育館は自由に使っていいよとか、何らかの対策をしていかないと、肥満対策は夏に運動したからいいというわけではないのですが、いろいろ組み合わせて物を考えないとうまく進まないのではないかと思います。それは大人の健康づくり、スポーツでも同じことが言えるのではないでしょうか。この辺のところを、最近の事象に合わせて工夫する必要があるのではないかということを感じましたので、発言させていただきました。

【吉野英岐座長】
はい。ありがとうございました。はい。続いては環境分野の藤田委員お願いいたします。

【藤田吉雄委員】
資料４の３ページ（2）のところ「豊かな環境が享受され、自然の恵みを将来にわたって享受できる地域社会をつくります」で、質問させていただきます。まず対応の方向性及び具体的取組内容のところで、ツキノワグマが最近特に多く出没しています。私、高松の池を散歩していて、そこにも出没しているようなのですけども、住民からもう２年ぐらい前から母熊が子熊を放して、そこに生息しているといった話もお聞きしました。出没した時に、その木のすぐ下のとこに出没注意と張り紙していましたけど、具体的に県民に対しての勉強会は必要で、市民意識といった普通の生活時でも、例えば、山に行くみたいに鐘を鳴らす、そういったことが、必要になってくるのかと思います。もし出没した時に県の許可がないと猟銃が打てないとか、初動の動作が遅れることで、市民の安全が脅かされるということが懸念されるのですけれども、そういった対策はどういう方向性でやられるのかお聞きしたいと思います。それから２番のプラスチックごみの減量化について、今日、スプーンを紙で作って町に販売するといった企業がニュースで紹介されていましたけども、岩手県ではどういったプラスチックごみの減量化を進める予定なのかお聞きしたいです。それから４番目のいわて地球環境にやさしい事業所とありますが、これを見ると今年度の目標を 90 とか立てていますけれど、根拠がよく分からない。なぜその数字が出てくるのか。認定制度は一つ星から四つ星とあります。複雑というかわかりにくいところがあるので、別に間口をもっと広げてもいいのではないか、緩和する気持ちはあるのか、せっかく温暖化防止といった宣言を知事が出していて、この具体的な取り組みとしてこのいわゆる地球環境にやさしい事業所と上げているわけですから、例えばこの SDGs にからめて、一つ星を倍増するとか、そういったことでもっと裾野を広げるような考えはないのでしょうか。それから、この６の盛岡合同庁舎省エネ対策推進とありますけれども、企業、民間の企業に対しては、今電気代がかなり高騰しているので、高圧の企業に対して光熱費の一部を補助するという形を取られていますけれど、これらの状況について教えてもらえればなと思っております。

【吉野英岐座長】
はい。ありがとうございました。ではこの分野最後になりますけれども、オンラインで御参加いただいています。南舘委員聞こえますか。

【南舘則江委員】
南舘と申します。葛巻町におります。そうですね（3）「歴史と文化を継承しながら、新たなつながりや活力を感じられる地域づくりを進めます」のところを見ていたのですが、仕方ないのかなと思いつつ、こういう施策は外の人に対してのものが多いなと思っていて、移住

施策はしっかり何か対策をとって活動されていると思うのですけれど、それに反して、地元に住んでいる、子供のころからそこに暮らしている人たちの、例えば子供がなぜここから出ていってしまうのか、そういうところが基本的に人口減に繋がっているはずなのに、本人の気持ちは置いてけぼりで、外から人を呼ぶっていうところにすごくエネルギーをかけているように、どうしてもこういう施策を見ると思ってしまいます。葛巻町としては、私は町の職員ではないのですが、北いわての女性たちが、今暮らす地域に自分らしく根差し楽しく生きていくため、自分の好きなことから小さなナリワイを生み出すのを応援する小商い創出サポート事業をしておりまして、私の会社でサポートさせていただいているのですが、その地元に住んでいる人が地元に誇りを持てない状態で、外から人を呼んで、それで果たして面白いと思ってもらえるのか、魅力的に感じるところに人が来るのかとか、そういう住んでいる人の気持ちの部分のフォロー、やはり資料になってくるとわからない、伝わらないなということがすごくあります。持続可能な地域コミュニティづくりとあるのですが、学生さんが基本的にいない地域は、外からの人ということになりますし、関係人口ってすごく大事なので、いい部分もあるのですけども地元のマンパワーを生かしてくれるような、細かいフォローが、本当は一番重要で、その上でものすごく目に入るところに、人は移住してくる。私もちょっとよそから来たことをそういうふうに感じて暮らしています。そういう視点で見たときにこの資料のどこにそれが当たるのか、もしあるのであればお聞きしたいです。

【吉野英岐座長】
はい。ありがとうございました。それではまずお答えいただいて、ちょっと時間押し気味なので全体終わってからまた御質問ある方は追加で受け付けることにしたいと思います。

【鈴木理事兼副局長兼経営企画部長】
事務局の方から、子ども支援センター関係と環境関係についてお願いします。

【菊池保健福祉環境部長】
保健福祉環境部長の菊池でございます。子ども家庭センターについてですが、お話のありました通り児童福祉法の改正によりまして、令和６年４月１日から市町村に設置の努力義務が、課せられているという状況でございます。目的といたしますと、市町村で、今、児童福祉と母子保健とそれぞれセンター、拠点がありまして、児童福祉ですと子ども家庭総合支援拠点、母子保健ですと子育て世代包括支援センターこれらの設置を進めているところですが、それぞれの機能を一本化いたしまして、妊産婦、子育て世代、子供が気楽に相談できる包括的な拠点ということで、設置を進めることとされているところでございます。それで、まだ国の方から具体的な要件とかが示されておりませんが、各市町村で取り組みの検討をしております。この間、市町村の担当者会議を開きましたが、令和６年度の設置に向けて具体的な検討をしているというところもありました。県といたしますと、そういった、各市町

村の取り組みや全国的にも取り組みが進んでいるような事例を、今年度紹介をいたしまして市町村の取り組みに向けたバックアップ支援をしていきたいと思っております。それから子供の学習支援ですけれども、これは実は貧困対策で取り組んでいるものであります。貧困の連鎖を防ぐということで、小中高生を対象に、公民館等での集合型の学習支援、それから、県一本で契約していますが、集合できない方について、アウトリーチでの学習支援などにも取り組んでおります。フリースクールの関係はまた別にということでお願いしたいと思います。それから、環境分野でツキノワグマについてでありますが、お話ありました通り今年度はツキノワグマの出没が大変多くなっております。ただ、ツキノワグマはですね、頭数管理をしている希少動物の一つということになっておりまして、鹿とか猪のようにとにかく減らすというようなことになっていないという状況であります。熊に関しては頭数管理をしているということで、狩猟については、緊急時の円滑な対応を市町村でやってもらうということで、捕獲上限数を市町村に配分しその範囲内において市町村で捕獲をするというような取り組みをしておりますし、狩猟期間を延長しながらですね、そういった数の管理を行っているということでございます。それで、今年度、地域経営推進費の中で、ツキノワグマについて、多くの方に理解をしてもらうということが大事であろうということで、地域の中で、河川の刈払や、食べるようなものを外に出さないような取り組み、そういったことが必要ですよというような普及をしていきたいと考えております。それから、プラスチックごみのご質問でありますが、プラスチックの削減につきましては、県の方でエコ協力店というものの認定をいたしまして、使い切りのプラスチックを減らす、そういったような取り組みをしております。協力店は、県内全部で 293 ありますけれども、うちの管内では 130 ほどあります。スーパーとかコンビニに管理をしていただいているということでございます。それから最後、地球温暖化ですが、今年度から岩手脱炭素化経営企業というふうに名前を少し変えました。いわて地球環境にやさしい事業所認定制度ということで、御指摘の通り目標 90 ぐらいにしておりました。毎年少しずつ増やしていくようにという設定でありますが、委員御指摘の通り間口を広げたほうがいいのではないかということで、要件も、星一つから四つまでとそれぞれの取り組みに応じて入りやすいように、星の少ないところは、認定要件もハードルが低くなっておりますが、御意見いただきましたことについては本庁の方にもつなげまして、制度のよりよい展開になるよう参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

【福徳盛岡教育事務所長】

盛岡教育事務所、福徳と申します。フリースクールについてですが、御質問のお答えになるかですけども、確かに不登校不適応の子供たちが非常に増えておりまして、それについての対応は本当に学校で頭を悩ませているところであります。不登校不適応の数が大きく増えているのと併せてといいますか改善している子供たちもかなりいます。先日、学校におじゃましたときも、2 年間全く学校に来られなかった子供が改善し来られるようになった、そ

ういった本当に非常に嬉しいこともあるのですが、それ以上にやはり、不適応の子供たちが増えてしまって、これにはもう、学校の努力だけではなかなか難しいところがありますので、多様な受け皿が必要になってくるということで今取り組んでいるところです。県とすればまず教育支援センター、公的な支援ができる教育支援センターというものの設置をすべての市町村に設置できるように今取り組んでおります。フリースクールについてはですね、本当に様々な団体がありまして、なかなか基準がないものですから、フリースクールをすべて把握するというのは今なかなか難しいところがありますけれども、今連絡会議を開いて、それぞれの持っている課題等を出し合いながら、子供たちへの対応を協議しているところです。それから、暑さ対策についてでありますが、まずこの地球温暖化のところでの暑さ対策というのは非常に大きなものがありまして、各学校でもマニュアルを作って対応をしているところであります。熱中症計を外に置いて、毎日のように測っていますし、今プールの時期ですが、その水温も測りマニュアルの基準に沿って、外での活動もなし、部活動もなし、それからプールでの活動も、やはり泳いでいる中での熱中症というものもありますので、そういったものについて中止をするということも、現在は必要があるとして取り組んでいるところであります。また夏休みのプール開放については、これはコロナの対応と関係がありまして、どうしても集まることがなかなか難しいことによって、ここ数年夏休みの開放については、PTA の方々に開放してもらう形になりますので、なかなか集まることが難しかったものです。それが、コロナが開けていくことによって、どのようになっていくのかということはこれからになってくると思います。また肥満についてですけれども、やはり運動量がコロナで落ちてきたというのはその通りでありますが、併せて食生活、それから、基本的な生活習慣についても見直しをしなければならないということで、県がロクマルプラス運動プロジェクトというものに取り組んでおりました。一日に 60 分間の運動にプラスして、望ましい食生活、望ましい生活習慣ということについても、見直していきましょうということで、各学校に取り組みをお願いしておりますし、担当の指導主事等が学校訪問をして、そのような運動に取り組んでいるというところであります。

【鈴木理事兼副局長兼経営企画部長】
企業の高圧電力補助についてお願いします。

【藤澤特命参事兼産業振興室長】
岩手県では、原油等の価格上昇に伴い、電気料金などが高騰している中で、県内の事業所等で特別高圧電力契約している中小企業者等や県内の特別高圧電力を契約している商業施設等において、特別高圧電力を利用し、その費用を負担している中小企業者等に対して支援金を給付しております。県のホームページの方でわかる範囲での回答でございますが、そういった支援金を県の方でも準備しております。

【鈴木理事兼副局長兼経営企画部長】

南舘委員からの交流人口、移住定住の話でございました。御指摘の通り、住んでいる住民が、自分が住んでいる地域に魅力を感じ、外に対し自信を持って良いところだと言える一方で、ニューヨークタイムズ紙に選ばれた盛岡市は、市内に喫茶店があったり、川が流れたり、ごく普通当たり前の景色ではありますが、それが意外と外の人から見ると、すごく素敵な景色だったり、魅力ある資源だったりするというのがあろうかと思います。また若い人の目から見て、自分の地域が持っている地域資源の魅力の磨き上げという視点は非常に大切だと思っていまして、当管内の地域振興プランの中の３番目に「歴史と文化を継承しながら、新たなつながりや活力を感じられる地域づくりを進めます」という項目がございまして、ダイレクトにすべて南舘委員の答えにはならないかと思いますが、一つの取り組みとしまして、若者の視点で県立大学の学生の方に御協力いただきまして、矢巾町と連携した矢巾温泉を題材とした地域活性化のための地域資源の磨き上げでありますとか、県立大学生と IGR が連携して IGR の魅力向上に向けた取り組みを進めています。すべてこれが南舘委員の御意見に対する課題解決の方向性ではないと思いますが、こういった一つの取り組みを通じて、地元にある地域資源をいかに磨き上げるかとともに住んでいる住民にとって自分の地域がいかに魅力的かを再認識するような取り組み、振興局としては、このような手法により取り組みを進めることで御理解いただきたいと思います。

【吉野英岐座長】

ありがとうございました。たくさん御質問いただくと、回答時間が短くなっての十分なお答えがいただけるかどうかちょっと自信がないところですけれども一つ一つ丁寧に答えていただきありがとうございます。残り約１時間で残り３分野ですので１分野 20 分弱ぐらいしかありませんけれども、続きまして第２分野に移りたいと思います。第２分野は防災都市環境生活環境交通ネットワークのとこですので、まず荒屋敷委員から御質問御意見お願いいたします。

【荒屋敷武則委員】

荒屋敷と申します。私は立った方が話しやすいので立ってお話しさせてください。普段、防災の教室など立って話をしていますので、よろしくお願いします。資料３資料４ともに４ページになります。それでここについてお話するのですが、実はこういう話になると、現地の地形や、条件、川幅とか、そういうところを見ないと話にならないので、一般的なお話に限らせていただきたいと思います。河川の改修や橋梁の補強などいろいろ書いておりますが、これについては、頼むから必ず早くやってくれということで、この一言につきます。もう一つ補足したいのは、何せ相手は自然ですから人類がどんな英知を持って臨んでも自然に勝てることはありません。ですが、そう言ってやらないで放っておくのはいけないことでどんどんやって欲しいのですけども、やっても災害は出ます。出ますので、被災する命や財

産が受けるダメージを少なくするという概念をとどめておかないと、近所に立派なコンクリート施設ができたのでこれにて安心だと逃げないという文化が生まれるとどこまでやっても効果が出ません。そういうことで、県の施策を検証しても、効果が出ないのです。ですから、こういうふうなものをやるときは、あわせて地区の一人一人の意識を、コンクリートの施設ができたので、それに負けないぐらい意識を高めて、避難訓練をやってくださいと付け加えておけば、こういう構造物を造った評価が正しく出ます。こういうことで、ぜひ一言で言うと、いいからまず早くやってくれと、どうせやるのだったら、10 月 11 月 12 月 1 月２月寒いときじゃなくて、早い時。特に７月７日は雨が降る。もう私は決めています。洪水が来るって決めますので、そこまでは間に合わないと思いますけども、計画を作るときは、早い方にシフトしてほしいと、ぜひお願いしたい。それから、地球の歴史は 46 億年、人間の一生は長くても 100 年ですから、いつ、どうなるかわかりませんけれども、この地球の営みの中で、毎年、川底は雨が降っても降らなくても、今も上流から流れてきたものが、必ず海まで行かないでどこかに止まっています。次の洪水でまた進んでいます。結論を言うと、川底は少しずつ上がってきます。ですから、過去の教訓を踏まえた防災対策といいますけども、過去の教訓を踏まえて、同じく設計したら間に合いません。川底は上がりますから。ですから、それはそれ、それを上回る対策して欲しい。特に岩手県はですね。四国４県よく言いますけど広いわけですね。雨は川の上にだけ降るとは限りません。田んぼにも降ります。畑にも降ります。山にも降ります。屋根の上にも降ります。どこにでも降ります。ですから、降る面積が一番広いのは岩手県なのですよ。大丈夫だなんて思わないでください。ですから、こういうふうな施策をやることについて私はとにかく、いいから早くやってくれと申し上げて、終わりにしたいと思います。ありがとうございます。

【吉野英岐座長】

はい。ありがとうございました。続いて谷本委員にお願いします。

【谷本真佑委員】

岩手大学理工学部の谷本と申します。(5) の「安全・快適な都市環境生活環境をつくります」から、２点ほど質問と１点コメントさせていただければと思います。1 点目ですが、①の方の高次都市機能の充実ですが、ここで御説明された施策について特に異論はないのですが、この高次都市機能の充実という文言をちょっと変えることはできるのかと御質問させていただこうと思います。といいますのは、資料 4 を見ると、高次都市機能の充実のために交通混雑を緩和するというように書いてあるのですが、最初に資料を拝見し、高次都市機能の充実とこの交通混雑緩和がすぐには結びつかなかったのです。参考資料３昨年度の施策評価を見ますと、道路網だけじゃなくて住宅整備などもやっていらっしゃると読み取れたのですが、今もうこのプランを作られたので難しいかと思うのですが、例えばこの高次都市機能の充実というのを、県民生活を支えるインフラの拡充などのように言い換えること

は可能かどうかについて１点御質問させてください。２点目ですが、参考資料６の 52 ページのところですが、今後の取り組み方針（2)「快適で魅力溢れるまちづくりの推進」アのところで、岩手県景観計画に基づき、良好な景観の形成や違反屋外広告物の是正指導等に取り組みますと書かれてところですが、これ多分、景観行政団体の岩手県もそうなのですけれども、盛岡市も独自に景観計画を策定しているかと思いますので、今回この計画は、盛岡市は盛岡市でやっていただいて、それ以外の管内はこの計画で対応しますということなのか、それとも管内の盛岡市とも連携を取りながらその管内全体としてこういった方針で取り組むのか、というところのお考えをお聞かせください。それから、コメントにつきましては、(5)「安心、快適な都市環境・生活環境をつくります」のところの③「建設業における担い手の確保・労働環境の整備」へのコメントになるのですが、こういった取り組みをしていただいて、私が所属しているところは比較的土木と関連の深い学科におるので、大変ありがたく感じております。実際お送りいただくほかの資料を拝読しても、その建設業のイメージが向上したというようなことを大変嬉しく思っております。ただ一方で、イメージを下げない努力も必要かなと思うのです。私昨年、どことは言いませんけれども、県が管理している道路の工事現場を歩行者として通行したことがありまして、そこでちょっと作業員同士、怒号が飛び交っていました。盛岡市の中心部と言っていい場所であり、結構歩行者の量が多かったものですから、聞く人が聞いてしまうとイメージダウンになってしまうかなと感じました。現場レベルまで県の方が介入するのは難しいかなとは思うのですが、そういうイメージダウンが避けられるようなことができたらなと思ってコメントさせていただきました。

【吉野英岐座長】
はい。ありがとうございました。それでは交通ネットワークのところで佐藤委員お願いします。

【佐藤万寿美委員】
建設業の弊社ですけど、私自身企業としての一番の課題は、こちらで重要課題の一つとして挙げていただいた、今、谷本委員さんがお話した、建設業における担い手の確保・労働環境の整備ということで、重点項目に挙げていただいて、他の産業でも少子化という問題を抱えた上で非常に共通する問題ではあると思うのですが、私ども建設業は、地域の皆さんの生活を守って、インフラ整備に関わる、なくてはならない産業だと自負しておりますので、これを守るためにも、建設業における働き手を、確保する必要があると思っております。今回の新規対策として保護者、教員を対象とした建設現場見学会と体験学習と掲げられておりますが、これはどういった形でどういう企画でされていくのか興味がありまして質問したいと思います。それともう一つは、盛岡南道路の整備が推進されておりますが、早期工事着手に向けた働きかけということで掲げられておりますけれども、どの辺まで進行しているのか情報を伺えれば幸いです。

【吉野英岐座長】
はいありがとうございました。それでは以上３名につきまして順番に回答をお願いいたします。

【鈴木理事兼副局長兼経営企画部長】
防災のソフト面とハード面のお話ございましたが、ソフト面につきましては、盛岡局のプランではなく、全県の政策推進プランの中に御指摘の通り県民への正しい防災意識の普及と防災意識の向上、まさに地域コミュニティの防災対策の強化と共助の面と、最後には、ハード面の防災減災対策の公助の面もございます。盛岡局のプランではなく、政策推進プランの中で、それを盛り込んで、御指摘のような取り組みを進めているといった形になります。
谷本委員からは、高次都市機能の表現について、御指摘がありましたが、４年間のプランとして政策推進プランを掲げており、盛岡局だけで見直すことできませんので、何か見直すタイミングがあれば、御指摘の御意見踏まえて、可能かと思います。当面この表現は、直せない状況になっていますので御理解いただければと思います。以下、ハード関係、担い手の関係、盛岡南道路については土木部長から説明します。

【菅原土木部長】
菅原でございますけれども、まず荒屋敷委員からお話しいただきました、とにかく河川改修、或いは橋梁の補強等々の事業を早く進めてくれというお話をいただきました。激励されている話ということで受けとめさせていただきましたが、国の方でも防災・減災国土強靱化５ヵ年対策ということで進めております。県の方でも計画的に引き続き進めて参りたいというふうに考えてございます。また、河川工事につきましても非出水期この時期にどうしても進めていかなければということがございまして、２ヵ年にわたる工事が、最近多くなってございます。そういったところも委員のお話も踏まえながら、着実に進めて参りたいと考えてございます。また一方でハードだけではなくソフト対策も重要だという話をいただきました。幾らハード整備しても、住民の避難の備えというのが何よりでございます。それで、今沿岸で取り組んでいる津波対策施設につきましても、ハード整備をしても、やはり避難が大事だというところがございます。住民避難については、市町村と連携して取組んでいく必要があると考えています。それから谷本委員の方からお話ありました屋外広告物それから景観の関係でございますけれども、委員のおっしゃるとおり盛岡市或いは景観形成団体は平泉町がございますけれども、当管内は、委員おっしゃいますとおり、盛岡市の計画を踏まえながら、盛岡市以外の他の市町村を含め全体を包含する形で、局が施策等進めて参りたいという趣旨でございますので、御理解をいただければと思います。３点目は、建設業のイメージを下げないことも大事だという逆の視点、非常に大事だなと思ってございます。現場でそういったことがあったという貴重なお話をいただきました。私どもそういったところも頭に入れて、建設業のイメージを下げない方策を考えていきたいと思います。貴重なお話あ

りがとうございました。それから最後でございますけれども、佐藤委員の建設業担い手確保、今年度から地域経営推進費を活用させていただきました。保護者と教員の関係でございますけれども、やはりこれまでは子供たちだけに建設業のイメージアップを図ろうということでやって参りました。一方、親御さん、先生方にもこの建設業が大事だというところを理解していただこうということで、盛岡市内の 50 あまりの学校にアンケート調査を行いまして、その中で特にも保護者或いは先生方の現場見学等の希望があった 10 校ほど予定しておりますけど、その学校を対象に、今年度から新たに進めようとしているものでございます。それから最後に盛岡南道路のことでございますけれども、現在、国の方で、道路の設計、地質調査を進めているというふうに伺ってございます。具体的な工事の着手時期というのはまだ国の方から示されてないわけでございますけれども、私の方といたしましても本庁と連携を密にしながら、国の方に早期完成に向けて働きかけて参りたいと考えています。一方で盛岡局の県央地域振興プランの中でも、重点項目の中にこの盛岡南道路の早期完成を位置づけているところでございます。いずれ早期完成に向け努めて参りたいと考えています。

【吉野英岐座長】

それでまだ二つ残っていますので先にいきます。３番目の分野、ＩＴ産業、ものづくり産業、観光産業、食産業、人材確保というところです。ではまず三井委員からお願いいたします。

【三井康平委員】

サステナという会社の代表の三井と申します。参考資料６の 47 ページの上から５行目、「県内では情報処理・通信技術者の有効求人倍率が高止まりする一方で、令和３年度に管内大学の理工・情報計画部・研究科を卒業・終了した８割近くが、首都圏など県外に就職」というところですが、この有効求人倍率が高止まりで、企業としては求人出しているけれど来てくれないということは事実ですよね。それに対して８割が出ていっていて、ミスマッチが起きているということだと思うのですが、その要因、この出ていった８割の人がなぜ県内企業を選ばなかったのか、なぜ大半は首都圏に行くのかというところ、その調査がどこまでできているのか、もしあればお伺いしたい。また、普通に考えると、IT 屋の僕もエンジニアなので昔の気持ちを持って考えると、楽しい、やりがいのある仕事につけるのか、給料がもらえるのか、生活環境がどうなのか、そう考えたときに、現状では正直に言うと勝ち目がもともとないものもあるのかなと思います。そうなった時に、この勝ち目がないものが多い状況でどうやって岩手に残ってもらうのか、どうやって遠隔地から岩手にきてもらえるのかというところの分析の部分が、この 46・47 ページあたりを見てもあまりないですよね。これは分析を書く資料じゃないかもしれないので、どこかで分析をしているのかもしれないのですが、現状要因に対する分析について伺います。それから、給与が安いことが悪いか良いかすごく難しいと思っておりまして、例えば企業が岩手に進出してくるときに、安い労働

力というのは一つ魅力にはなる。ただ、それでいいのかというと、給料もらう側としては面白くないですし、地域のGDPを考えると、間違いなく給料は良い方がいいと思います。要は利益率がいい仕事を岩手でやる、そういう企業を岩手に呼ぶなり生むなりしなければならないはずなのですけど、利益率に関してもあまり言及がないのではないかと。売上という指標はあるのですが、売上上がっていても赤字だったら全く意味がないわけなので、利益も大事だと思います。かつ、利益も安い給与を前提にして利益が出ているのであればそれは労働力を安く買いたたいているだけなので、いい給料払った上で利益が残っているかどうかということが、大事かなと思っています。特に、成長産業・IT産業は、いい給料を払った上で利益を確保しやすい。そういう面で、働く人にきちんと貢献していくことも経営の役割のはずなのですが、その辺が行政としてどこまで口が出せるか、調べられるか、実はすごく大事なところなのかなと思います。学生たちが見向きもせず東京に行ってしまう要因の一つになっていないかなというところが気になりましたので、そこについて見解をお伺いできればと思います。

【吉野英岐座長】
はい。ありがとうございました。続いて佐々木委員お願いいたします。

【佐々木孝之委員】
改めまして小岩井農場佐々木です。私も二つ、質問といいますか情報共有させていただきたいと思います。まずSDGsの国内教育旅行誘致という文言がありまして、僭越ながら一つ参考例ということで、私が誘客推進で使っているツールを持って来させていただきました。小岩井農場の観光案内ということで、130年分の営みと歴史を紹介させていただくことによって、環境への配慮ですとか、それからずっと乳を絞り続けていることですとか、120年を超える建物を使い続けていることですとか、そういったお話をして、SDGs 関連を学生の皆さん自ら見つけてもらおう、こういったことの御紹介をさせていただきました。去年は、約３万人の学生さん児童さんに来ていただきました。しかし今年、学生団体の予約は半分しかありません。みんな東京、関西、沖縄に帰ってきました。去年来ていただいたときは東北旅行いいなってみんな言ってくれたのですが、いわゆるリベンジ商品ですね、コロナの環境このような状況になって、みんな、本当に行きたいところ一番楽しいところへやっぱり戻っていくということで、ディズニーランド、USJ、沖縄と行ったところへもうみんな戻っているということが起こっております。ただもうリベンジ商品だと私は思っていますので、まだまだ東北、それから岩手県にはチャンスがあると思っているのですけれども、先ほど別件でこの資料書き換えが難しいとお話を伺いましたけども、今学校のニーズはSDGsではないと私は思っています。総合的な探究の時間、これが去年から学習指導要綱に加えられていて、この探究学習といったものをどう学校が進めていくかといったところにSDGsの言葉のブームがありました。まずここから勉強しようといった流れがあった。ですが、そもそも探究学習

をどう行っていくかということですので、ここにまた学校側のニーズに答える、我々から言うと商品になるのですけども、いわゆる旅行商品を用意すれば、いろいろな探究をする探究学習、どういうことかというのはホームページ等々見ていただければわかるのですけども、この探究学習のニーズに応えていけばまだまだチャンスはあると思います。資料４の６ページにSDGs教育旅行プログラムや生徒の学習補助教材となる探究学習ノートのWEBサイトでの発信と書いてありますが、探究学習の探究という字はこの求めるという字ではありません。究めるの方になります。この辺りも共通言語になってきます。ここの答えを出していくということがこれから努力すればまだまだ私はチャンスがあると思っています。もう一つ、スポーツツーリズムの推進です。サイクルツーリズム、これも日本全国ブームになっていますので、岩手県広い国土を使って、自転車でのんびり遊んでいただこうといった試み。私も非常に自転車好きですから、賛同する部分なのですが、ニューヨークタイムズの話題になりまして、外国人のお客さん含めてたくさんの観光客、実際盛岡にたくさん来られております。小井農場にも、盛岡にこられたお客様が足を伸ばしてたくさん来ていただいているのですが、実はもう一つ大きな岩手県に来る目的となっているものがあるのだなというお話をたくさん聞けまして、それはWBCでの大谷さんと佐々木朗希君の活躍です。岩手県人の活躍、一体あの２人が生まれた岩手県には何があるのだっていうことを求めてこられた遠方のお客様がゴールデンウィーク、意外にたくさんいらっしゃいました。ですので、観光誘客、これだけコロナが解消されて、私たち観光誘客を実際に行っているものからすると、もう、地球全土でお客様に来ていただくために、地球全体の観光地と競争するといったことになっています。それからすると、やっぱりお客様を惹きつけやすいテーマ、ニーズ、そこを使って誘客をしていくことがやりやすいということがありますので、大きな名前を使うということは難しいのかもしれない、いろいろあるのかもしれないのですが、やっぱり非常に岩手県の興味をそそる大きなポイントとなっているというお話を聞きましたので、共有したいと思います。

【吉野英岐座長】
はい。ありがとうございました。続いて工藤委員お願いします。

【工藤理沙委員】
八幡平市で漆器の製造販売をしております工藤と申します。私から資料４の６ページ、④「商品の高付加価値及び販売拡大の推進」について、数年前から工芸の商談会を開催していただき、コロナ禍での大変難しい状況だったと思うのですが、県外からバイヤーの方を呼んでいただいて、商談会を数年にわたって開催していただいていました。それについて、参加企業社が何社で、県外から来られたバイヤーが何名という報告はあったんのですが、実際にどれだけ成約に繋がっていて、どれだけ取引が今も続いていて売り上げが上がっているのかということについても知りたいと思っています。結果どうだったのかということを教え

ていただけるのであれば、知りたいと思います。バイヤー向けの商談会というのは、正直新しいお店がどんどん増えるという状況ではないと思いますので、頭打ち状態なのではないのかなと思っていたところ、今年度新規で消費者向けの工芸展を開催するという計画があると書いてありましたので、そちらの内容について、大変期待したいと思っております。それから、盛岡広域圏内で工芸品の製造されている事業者さんも大変多いと思います。というのも、消費者、使い手にあたる方達への認知度がどれぐらい進んでいるのか、まだまだ高めていかなければならないのではないかと思っています。自分たちが住んでいる町にそういう歴史のある工芸品があって、それが県外からは、また海外から高く評価されているということをもっとより深く知っていただくことがシビックプライドの上昇にも繋がっていくのではないのかなと思っています。それから、その工芸品をただ展示して販売するというだけには納まらないで、例えば体験していただく、今流行りの盛岡広域圏内おいしい食材が大変沢山ありますので、食材と組み合わせて工芸品の器を使っていただくとか、そういった来た人も楽しい記憶に残る、すぐに欲しくなる人は欲しくなって売上に繋がるというような、ただ展示して販売するだけではない、ちょっと一歩踏み込んだ展示会にしていただけるととても良い企画になるのではないかなと思いました。また、もう少し広い視野をもって、観光ともつなげていただいて、なぜその工芸がこの土地で愛されて、今もずっとつくり続けられているのかというところを深く掘り下げていただくような、そういったツアー、インバウンド向けの方にもそういったことは大変望まれていることだと思いますので、そういう風土、まるごと含めた見せ方ということもしていただけると、深みのある展示会になるのではないかなと思っていました。

【吉野英岐座長】
はい。ありがとうございました。それでは最後になりましたけれども、村松委員お願いします。

【村松直子委員】
矢巾町で、空調設備業、こういったエアコンですとか住宅設備への取り付けや修理をメインで行っております信幸プロテックの村松と申します。どうぞよろしくお願いします。私からは、人材確保のテーマから少しお話させていただければと思います。質問というよりは、提言というか私の体験に基づいた話になるのですけれども、私ども採用に関してはちょっと話がずれますが、以前に盛岡市及び広域の企業ということで、公的な支援でワークライフバランス研修を受けさせていただきまして、支援いただいた後にやってきたことが、DX に繋がり、また健康経営や男性育休では制度面に繋がり、非常に良い支援を受けさせていただいたおかげで、順調に会社としても成長してこられたと思っております。流行り言葉としてワークライフバランス、ダイバーシティ、DX そういったことをとらえるのではなく、そのセミナーを受けさせていただいた段階で、非常に手厚く、なぜこのことをうちの会社が取り

組まなければいけないのか、どういうふうになりたいのか、そういった将来像を非常に手厚く考えさせていただいたという経験がありました。そこから、企業としての仕組みを整えられたと考えております。ですので、人材確保の面から言いますと、参考資料６の 74 ページを見させていただいたときに、非常に発信的な項目、見学受け入れ、PR、交流会などの企業が伝える発信するという項目が多くあるなと拝見しました。しかし果たして、発信するだけＰＲするだけで、魅力を持っている企業がどれだけあるのかということを僭越ながら考えさせていただいた時に、私どものように何も知らないところから、目的や企業の目指す姿といったところをもう少し考えるような中長期的なテーマでの研修や他の企業の姿を知るといった活動もあった方が、非常に採用には繋がるのかなと自分の経験より考えまして、提言させていただきます。また、高校求人に関して言いますと、私ども求人に関しては、リクナビ、マイナビ、そういったような媒体ですとか、合同説明会とか交流会とかそういったものに一切参加をしておりません。その中で毎年、学校紹介とか応募をいただくということは、特に私どもの感覚では、こちらの資料にもよく出てくる言葉ですけど、人材定着が大事だなと思っております。それを考えたときに、やはりこの PR をするという側面だけではなく、そのうまくいっている企業は、どういうやり方をして、何を大事にやっているのかということを企業同士で知り合うという場面が本当に必要ではないかなと考えます。そういったことを一つ提言させていただきたいのが、私の意見です。続きまして、参考資料３の 104 ページを拝見したときに、こちらは質問なのですが、「高等学校と連携し、生徒の希望や適性を踏まえながら、応募候補先企業の選定や選考試験に向けた的確なアドバイスのほか、面接指導を重ねて行うなど生徒一人一人に寄り添いきめ細やかに対応しました」とありますが、かねてより、どういった基準で先生方がその学生さんへ紹介されるのかなとか、どういった基準で学校は見ているのかとか、わかりにくいというか、本当に沿っているだろうかと考えることがありました。この内容についてもう少し詳しくお聞かせいただければありがたいなと思います。

【吉野英岐座長】
はい。ありがとうございました。それでは事務局の回答をお願いいたします。

【藤澤特命参事兼産業振興室長】
盛りだくさんの御意見・質問をいただいております。漏らしたところがありましたならば、後程の回答、あるいは御指摘をいただければと思います。まず三井委員の御質問、なぜ出て行くのかということと、それから、安い人件費で買い叩かれている、利益率はどうなっているのか、そういった趣旨の御質問だったと思います。村松委員からいただいたお話と共通すると思うのですが、経営者が何を目指して経営しているのかということに尽きるのかなと思います。というのは、ここ２、３年、中小企業の経営者からお話をお伺いする機会がありました。デジタル化のお話なのですが、デジタル化はあくまでも道具なので、それをどう使

ってどういう経営をするか、目指すべき姿があってそれを解決するための経営戦略、経営課題をどう考えているのかが必要となります。しかし、県内3万5000社の企業がございますけれども、それについてしっかり考えている、答えられる企業は、実はそんなに多くないということが分かりました。先ほど村松委員がおっしゃったとおり、目指す姿や経営戦略などの考え、ビジョンを伝えることで、人材確保の際に選ばれる企業になると思いますし、利益率を出していく、出せるような会社づくりをやっていける企業が市場からも選ばれ、かつ人材確保でも選ばれるのかなと思っております。

佐々木委員からいただきましたSDGsの旅行商品化の情報提供、大変ありがとうございます。資料に誤字がございまして大変申しわけございません。改めさせていただきたいと思います。教育旅行先がまた戻ってしまっている状況について、実際身近に感じられているということを共有させていただきたいと思います。一方、岩手県として、教育旅行の誘致を進めていく中で、佐々木委員からのお話にもありましたような、探究学習でSDGsを分かりやすい題材として使っていただけるような旅行商品を御提案していく、磨き上げを進めていきたいと思っています。それから、大谷選手、佐々木朗希選手、或いは盛岡管内ですと、小林陵侑選手、菊地雄星選手、なぜこの地域でそういう人たちが生まれてくるのかということも観光に抱き合わせて使えるものがあると思います。そんな口には出さない、或いは商品にはしてないと思うのですけれども、やはりそういう意識は私どもにもあると思いますし、それから実際、観光に携わっている皆様におかれましてもそういった意識、部分もあると思いますので、これからセミナーなどでお会いする場面で、話題にしながら、何か形にしていけないかと意識しながらやっていきたいと思っております。貴重な意見ありがとうございました。

工藤委員からの御質問で、成約件数や取引件数ということでございましたけれども、事業者がどのぐらい来たかということについては把握しているのですが、その後、成約に結びついた取引、今どのぐらい続いているのかということまでは、申し訳ないのですが把握をしておりません。また、展示販売だけではなく、それに合わせて器の体験をしていただくことで相乗効果を高めていくということについては、これから私どもの方で開催するイベント、或いは観光物産イベントや消費者向けの展示会などがございますので、そういった際に企画をし、相乗効果を上げていくような取り組みをしていきたいと思いますし、見せ方にも工夫・配慮していきたいと思っております。最後、村松委員からいただいた質問内容を確認したのですが、もう一度よろしいでしょうか。

【村松直子委員】

参考資料３の104ページのウ取組実績でございまして、「高等学校と連携し、生徒の希望や適性を踏まえながら、応募候補先企業の選定や選考試験に向けた的確なアドバイスのほか、面接指導を重ねて行うなど生徒一人一人に寄り添いきめ細やかに対応しました」というところの詳しい内容を教えていただきたいです。

【藤澤特命参事兼産業振興室長】

盛岡広域振興局産業振興室に就業支援員３名、キャリア教育コーディネーター２名、合わせて５名おります。この方々が管内の高校や前年度に実際管内から就職した企業様を、年間大体 850 件ほど訪問しております。企業から得た情報などを踏まえながら、繰り返し管内の高校生一人一人、就職希望者とお会いしながら、本人の考え方、何を目指すのか、それを実現するために実際就職活動でどういったことを大切にしなければいけないのか、或いは何を見て考えて就職していかなければならないのか、そういったアドバイスを中長期にわたって４月から２月にかけて、個別に対応しております。

【吉野英岐座長】

１人で全部答えてもらいましてありがとうございます。次の第４分野が残っていますのでこちら一旦、質問回答終わった後にまたお時間あれば補足での応答をしたいと思います。それでは第４分野主に農業、林業のところですけれども、こちらの工藤委員の方からお願いします。

【工藤壽充委員】

八幡平市で、米を生産しています。水稲農家の工藤と申します。よろしくお願いします。聞きたいことはたくさんあるのですが、時間もないので、３、４点。資料４の６・７ページ「米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます」の１番ですが、小中学生を対象とした体験学習の開催について、よくニュース報道で、春は田植え、秋は稲刈り、保育園や小学生などの映像がよく出てくるのですが、主に手植え、手刈りの映像ばかりなのですよ。機械植えとかそういうものが一切出てこない。すりこみという感じにもなる。そういった体験しかできない子供たちが沢山いるのです。学校でこういうものだと教えられるとそういうものだと思ってしまいがちになるのではないかと、すごく思っていて、田植えの基本的な部分は、手作業かもしれないのですけれど、その隣で無人田植え機の実演といったことをきちんと生で見せることが、本当に大事なのではないかなと最近思っています。機械の展示ではなく、実際の圃場で機械を見ると全く別なのです。工場、トラックの上、コンクリートの上で見る農業機械ではなく、やっぱり土の上で実際に動いているところを見せてあげないと実感がわいてこないと思うので、教育機関での勉強を踏まえて、新しい体験を見せてあげていかないと今後に繋がっていかないのではないかと思っていました。二つ目なのですが、７ページ２の自動水管理システムのことなのですが、開水路用システムというのは、多分３種類ぐらいしか今はないと思うのですけど、そのうち一つは本当に実用性があるので、どんどん普及して欲しいのです。ただ、金額が高いので、その辺の実証はかなり進んでいるとは思うのですけれど、この普及推進という部分で、どういったことを考えて推進していくかという部分、難しいと思うのですが何か策があるのであればお聞きしたい。それから、意見なのですが、参考資料６の 58 ページ現状と課題のところ

で、岩手県の水田整備率が低い。新しく出来ている圃場等々も、八幡平市でも実際、市役所前にできているのですが、設計がおかしい、使用する側、耕作する側の利用を考えてない中でただ大きくしましたというような作りなのです。他県にいくと本当に使いやすく、例えば軽トラではなく、２トン車、大型車が横付けでもきちんとすれ違えられるような道路もできて、作業しやすく、作業者が用水路も跨ぐということは一切ない作りになっているのに対して、跨げないような水路もあり、例えば大きい圃場になればなるほど両側で作業しなければいけないような状況でも片側しか行けない、作業を人の手でなければできないようにしか作られていない、機械が使えない、車両が入っていけない、実際そういうところが見受けられるので、是非とも使う側の意見をもっと取り入れ、設計をしていってほしいです。

【吉野英岐座長】
はい、ありがとうございました。では全体の最後になりましたけれども松ノ木委員お願いします。

【松ノ木奈々子委員】
雫石町で、米とりんどうの苗づくりとトルコギキョウの生産をしています松ノ木と申します。３年ぐらい前から、りんどうの苗づくりをする方が、（小さいものが）見えにくくなり、もう播種できないからやらないかと声がかかり、何もそんな難しいことじゃないかなと思って引き受けてしまったのですけど、割り箸を割ってその先に針をつけて、ちょっと濡らして点々と（細かい種を付けて）蒔くのですけど、本当に大変です。りんどうは定植して１年目は収入ゼロなのですが、雫石の花き部会では指導者の方がとてもすばらしい方で、りんどう始める方がどんどん増えています。いいことだと思うのですが、資料４の７ページのりんどうのところ、自動選別機の開発と書いてあるのですが、それよりも結束機と言って、10本ずつまとめる機械があるのですが、その結束機すら買えないで手でやっている人が、この自動選別機の導入と言われても、経費がかなりかかると思うので、どういう方法で農家の方に導入の方法を考えているのかを聞きたいです。

【吉野英岐座長】
それでは御質問への回答をお願いします。

【中村農政部長】
農政部の中村です。工藤委員から農業体験学習ということで、多くの学校で田植えをしているお話がありました。今は、手植えも手刈りも田の隅でしかやらないのですが、やはり体験学習は体験で終わることなく、学習ですので、しっかりと学ぶ場であるものと思います。そういう意味で、やはり工藤委員から御提言のあったとおり、手植え田植えは、それはそれで、みんなで楽しくやる、それは大事なことでありますが、やはり農業というものをもっと

知っていただくという点では、高性能な農業機械が開発され、地域に入っていますので、そういったものをしっかり学習という形でお見せしながら、実際に乗ってみて、小さい頃から農業に興味を持ってもらうということが大事だなと思っております。今回このような体験学習、大手機械メーカーと共同で高性能なスマート農業機械、我々が見てもすごいなと思えるようなものを子供たちに見てもらいながら、農業にもっともっと関心を持ってもらうイベントを予定していますし、いろいろな機会を通じて農業というものを見せていければと思っております。それから自動潅水システムの関係でございます。圃場整備と一体的にやるような自動潅水システム、確かに効果はありますが、非常に高いものもあります。今回、試験的に高価なものと合わせて簡易なもの、いろいろと課題もあるようですけれども、メーカーと話をしながら、導入しやすいような形のものを試験的に実証してみようと思っております。結果が良ければさらに波及していけるのではないかなと思います。規模拡大すると、水管理が非常に大変なので、そういったことで進めて参りたいと思います。それから、水田整備率、非常に東北でも岩手県は率が低いということは昔から言われております。効率性を上げるという点では田んぼを広くするだけでは駄目だと、やはりその作業性も先ほど工藤委員からお話があったとおりと思いますので、様々な意見を圃場整備と合わせて、効率を上げる点で、大きさだけではなく作業面からも農家から意見を吸い上げ、我々からも逆に提案していきたいと思っております。どうもありがとうございます。それから、りんどうの関係、松ノ木委員から提言がありましたりんどうの関係でございますが、私も種まきやったことありますが、今では私の目では見えないくらい小さい種子で、機械化というのもあるのでしょうけれども、りんどうの作業をする上では、播種もそうですし、それから何といいましても、収穫調製作業がかなりの時間、ウエイトを占めるということで、今回自動選別機の開発を我々と部会と一緒に進めているところでございます。ただ、非常に高価なものでありますので、個別で導入する方も中にはいるかもしれませんが、例えばそういったものが将来的には地域全体で調製センターのような形で、できればいいなと思っております。実際に導入にあたっては、結束機も含めてですけれども、県の様々な事業を御提案をしながら、少しでも農家の負担を軽減できるように、努めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【吉野英岐座長】

よろしいですか。はいありがとうございました。といううちに大体時間になってしまいまして、さっきの御質問の中で、まだこれだけちょっと至らなかった、或いはここの部分の回答がもう少し聞きたかったということだけお受けしたいと思いますが、よろしいですか。すみません急がせてしまって申し訳ありません。この後、懇親会があるので足りない人はそこで事務局とお話を続けていただければと思います。私自身も意見も時間もほとんどないのですけれども、懇親会で言えばいいかもしれませんが、この新しい計画が動き出す４年間をどうするかということが一番直近の課題だと思います。冒頭のコロナの話もありました通

り、まだちょっと生活不安感からなかなか抜け切れなく、大分戻ってきたものの、疾病の問題それから物価高騰であるとか、或いはこの防犯防災っていう意味で、比較的盛岡は大きい災害が少ないとはいえ、やっぱりこういろいろニュースを聞くと、本当に今の社会環境、自然環境で、これからやっていけるかどうかいろいろ心配なところがあります。国土強靭化等々で整備を進めているというところはおっしゃる通りだと思いますけれども、どうやってこの不安感を軽減するか、各部署に共通すると思うのですけれども、経済的な不安ということは当然大きいですから、この不安感軽減に向けて、各部署でできる範囲のことをどんどんしていただくことで、少しでも住みやすい地域をキープできるような施策を打っていただければと思っておりましたので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。私の方からは以上ということにいたしまして、事務局の方にお返ししたいと思います。お願いします。

６　その他

【今特命参事兼企画推進課長】

吉野座長大変ありがとうございました。それでは６その他に入ります。時間もちょうど５時になってしまいましたが、もし何かございましたら皆様から、よろしいでしょうか。はい。

７　閉会

【今特命参事兼企画推進課長】

それでは最後に局長から、御礼のごあいさつを申し上げます。

【佐々木局長】

今年度の 1 回目の経営懇談会ということでありまして、当広域振興局の取り組みについて、それぞれのご専門の立場から様々御質問、御意見、また新しい情報をちょうだいして本当にありがとうございました。質問につきましては各部長から御説明申し上げましたが、なかなかその時間に限りがあって駆け足になりましたので、この懇談会が終わった後、或いはその後の懇親会、或いは後日でも結構でございますので、確認をいただければ幸いでございます。ちょっともやもやが残っている委員もいらっしゃることと思いますので早めに解決していただければありがたいなと思います。日々この新しい課題が様々発生してくるわけではございますが、今日感じたのはやはり一つの分野だけではなくて、分野を跨いで考えるということが特にこれ大事だなということでございます。特に人口減少問題は、いろいろな分野に複合的に対応を考えていかなければいけないというのは改めて感じたところでございます。いただいた意見につきましては、今後の施策実施に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。